

私の講義風景—始めと終り—

小池 秀夫

1. 叙述する授業の範囲と背景
2. 今年初めての試み
3. 「非日常体験時間」の内容
4. 「非日常体験時間」の意義
5. 「非日常体験時間」に対する学生の反応
6. 校歌と練習会
7. 公開講座
8. 硬式野球部応援など
9. 私的DVDの寄贈と反応
10. 「非日常体験時間」の理由

【要旨】

ほかの講義と全く異なる点のみ取り上げ、筆者の授業の一端を示すことにする。主に地理を知らない、また、好きでない学生に対し、なかなかやめられない方法であるが、講義時間の中に10分足らずの「非日常体験時間」を設けている。その内容を具体的に示すとともに、それに対する学生の反応やそれを行う理由も記述した。それとの関連で、校歌練習会や公開講座にもふれた。たとえば、学生が校歌に関心を示さないのは、知る機会が乏しいからである。そのため、延べ6回ほど授業中に演奏したり、歌うこともある。練習会に参加するゼミの数は少ないが、参加者の感想は肯定的なものがほとんどである。

【キーワード】

非日常、映像、ハーモニカ、受講者、校歌、経済地理、地域

1. 叙述する授業の範囲と背景

筆者の主要担当科目は経済地理である。90分の授業のうち80分間は、ほかの講義風景と特別違うところはない。以下の叙述は授業の核心部分に関するものではない。したがって、ここに書いてある内容で筆者の授業全体を評価することは、もちろんできない。ここでは、ほかの多くの授業とは全く異なる点だけを取り上げる。それは授業の最初と最後の風景である。特に最後10分足らずの「非日常体験時間」（以下、「10分」と表示するが、映像等は約5分、説明を加えた場合は約10分になることもある）では、毎週特集を組んで、さまざまな映像が流れ、それにハーモニカの音色が加わる。映像のほとんどは、筆者が左手でハーモニカを吹きながら、撮影したものである。1曲を演奏するのに数回場所を替えた映像も少なくない。熱心に受講して疲れた学生だけでなく、この時間があるから出席しているという学生やそれまで眠そうにしている学生にとっても、気分転換できる時間がやって来た。

ところで、地理は苦手という学生が多く、本学の場合、地理は受験科目にもない。もちろん、このことは多くの大学に共通していることであり、地理学会での問題にもなっている。2008年度の場合、地理で受験可能な大学は18.2%に留まり、学部数でも20.3%である（表1）。特に国立大学で低い。私立大学に限って、地域別にみると、近畿が特に低く、中部がそれに次ぐ（表2）。半数の大学で可能なのは四国のみ、学部では北海道だけである。経済地理を履修する学生の多くも、この科目に関心を持っているわけではない。授業アンケート調査結果により、この科目の履修理由を見てみよう。2009年度の場合、「講義概要を読んで、科目の内容に興味を持ったから」は約3割に留まり、「時間割の都合」が58~59%に達する（表3）。

多くの学生は地理的知識も乏しいし、地元の名所や施設でさえも、意外なほど訪れることが少ない。愛知県の2008年統計で、利用者数が100万人を超えた県内29ヶ所に名古屋テレビ塔を加え、学生に利用の有無を聞いてみた（表4）。施設の中に入らなくても、近くで外観を見た場合は「利用」とみなした。受講者の利用率が最も高いのはナゴヤドームで、85%に達する。ここでは野球以外にも様々な催しが行われる。隣接した大型ショッピングセンターからも間近に見ることができるので、この数も入っているかも知れない。そのほか、空港、動植物園および水族館が50%を超えるが、テレビ塔は30%に留まる。

30施設のうち、利用施設が3つ以下にすぎない学生は22.5%と多く、半分以上を利用した比率は10%に留まる。県の統計は1年間の利用状況であるが、ここで

表1 地理で受験可能な大学・学部数

	全国の大学・学部数		地理で受験が可能な大学・学部数			
	大学数	学部数	大学数	比率 (%)	学部数	比率 (%)
国立大学	82	347	12	14.6	26	7.5
公立大学	72	163	2	2.8	4	2.5
文科省所管外	8	(学科) 13	1	12.5	(学科) 2	15.4
私立大学	561	1,519	114	20.3	382	25.1
合計	723	2,042	129	18.2	414	20.3

(注) 資料: 駿台予備学校発行「国公立大学・私立大学入試科目配点一覧 2008年度版」
出所: 日本地理学会地理教育専門委員会発行「未来を拓く地理教育—地理教育振興策の
成果と課題—」(2008年度日本地理学会春季学術大会資料集) 1頁

表2 地理で受験可能な私立大学・学部数の地域的特徴

地域	大学数	学部数	地理で受験が可能な大学			
			大学数	比率 (%)	学部数	比率 (%)
北海道	23	57	10	43.5	32	56.1
東北	29	57	9	31.0	18	31.6
関東	204	605	37	18.1	157	26.0
中部	88	240	13	14.8	39	16.3
近畿	120	327	11	9.2	48	14.7
中国	36	84	7	19.4	18	21.4
四国	8	25	4	50.0	11	44.0
九州	49	115	22	44.9	55	47.8
沖縄	4	9	1	25.0	4	44.4
全国	561	1,519	114	20.3	382	25.1

(注) 資料: 駿台予備学校発行「国公立大学・私立大学入試科目配点一覧 2008年度版」
出所: 日本地理学会地理教育専門委員会発行「未来を拓く地理教育—地理教育振興策の
成果と課題—」(2008年度日本地理学会春季学術大会資料集) 1頁

表3 「経済地理」を履修した主な理由(複数回答可)の構成比

(%)

回答項目	2007年春	2007年秋	2008年春	2008年秋	2009年春	2009年秋
A	38.3	39.4	29.0	36.2	30.9	33.3
B	2.5	3.0	4.3	17.2	3.6	—
C	3.7	4.5	7.2	—	5.5	5.1
D	50.6	45.5	49.3	41.4	58.2	59.0
E	4.9	9.1	7.2	5.2	1.8	5.1
F	11.1	7.6	11.6	8.6	10.9	5.1
G	1.2	3.0	1.4	—	—	—

(注) 凡例 A: 講義概要を読んで、科目の内容に興味を持ったから B: 将来の進路
と関連があると思ったから C: 単位がとりやすそうだったから D: 時
間割の都合 E: 必修科目だったから F: その他 G: 無回答
全学的な「授業アンケート」の結果により作成。

表4 愛知県の観光レクリエーション利用者統計利用者数上位観光資源と「経済地理」受講者の利用率 単位：人，%

順位	市町村	観光資源名	利用者	利用率
1	常滑市	中部国際空港見学者	13,180,000	57.5
2	刈谷市	刈谷ハイウェイオアシス	7,467,000	27.5
3	名古屋市	熱田神宮	6,481,184	35.0
4	名古屋市	ナゴヤドーム	4,076,800	85.0
5	豊川市	豊川稲荷	3,403,000	20.0
6	蒲郡市	ラグーナ蒲郡	2,799,800	25.0
7	名古屋市	東山動植物公園	2,201,476	62.5
8	一宮市	国営木曽三川公園 138 タワーパーク	2,111,110	22.5
9	大府市	げんきの郷	2,024,589	10.0
10	名古屋市	名古屋港水族館	1,993,511	60.0
11	名古屋市	なごやまつり	1,974,570	2.5
12	犬山市	成田山名古屋別院	1,696,000	10.0
13	豊田市	豊田スタジアム	1,622,290	15.0
14	知立市	三河三弘法遍照院	1,459,000	2.5
15	名古屋市	瑞穂運動場	1,420,702	37.5
16	名古屋市	にっぽんど真ん中まつり	1,400,000	5.0
17	一宮市	一宮七夕まつり	1,270,000	2.5
18	名古屋市	名古屋城	1,257,323	47.5
19	美浜町	えびせんべいの里	1,230,667	27.5
20	豊田市	香嵐溪	1,229,463	27.5
21	長久手町	愛・地球博記念公園	1,211,100	40.0
22	一宮市	真清田神社	1,198,965	2.5
23	岡崎市	岡崎公園	1,198,100	30.0
24	安城市	七夕まつり	1,190,000	7.5
25	碧南市	あおいパーク	1,173,793	-
26	蒲郡市	蒲郡オレンジパーク	1,096,442	7.5
27	碧南市	明石公園	1,092,572	2.5
28	幸田町	J A あいち三河幸田憩いの農園	1,057,136	7.5
29	豊田市	鞍ヶ池公園	1,000,900	12.5
	名古屋市	名古屋テレビ塔	289,587	30.0

(注) 愛知県産業労働部発行「愛知県観光レクリエーション利用者統計」による、2008年の数字。利用率は、2010年6月3日に、出席者40名に聞いたものである。

は「今までに行ったことがあるか」をたずねている。その点を考慮すれば、かなり低いといえる。なお、筆者は18ヶ所であるが、開放講座受講生の中には20ヶ所を利用した人もいる。

以下の叙述は、必要に応じて、経済地理（商学部3～4年生）だけでなく、教養科目の経済学（商学部と経営学部を除く、6学部1～4年生）履修者も含めることにする。特に断らない限り、両科目（計3クラス）の状況を示す。

2005年には県内の長久手町を主会場とした愛・地球博（愛知万博）が開かれた。

大学のある日進市はその南隣にあるが、キャンパスの一部（駐車場）は長久手町に伸びている。非常に近いところで行われたことになるが、学生の多くが万博を楽しんだのであろうか。万博終了3～4日後にアンケートをとってみた。一度も行かなかった学生が31.1%に達した。理由は「入場料が高い」、「興味がなかった」、「忙しい」などさまざまであるが、最も多かったのは「混雑」と「人ごみや待ち時間がいや」である。理由は自由記述であったが、「自然の叡智というテーマとかけ離れていると思い、わざわざ人ごみにまぎってまで参加する程の意義は存在するのかと悩み、行かないと判断した」という4年生もいた。「行ったのは1回のみ」が44.7%と、半数近くを占めた。「4回以上」は6%に留まる。1名のみ「週2～3回のペースで行った」と答えた。

上記4年生を含む、万博を避けた学生にもぜひ体験して欲しかったと思う。その時のテーマとは別に、どの万博にも共通するのは国際交流であろう。常に友好的な雰囲気が高い、厳しい現実と異なるとはいえ、多くの国や国民に接することができる。一般の人がこれを最も容易にできるのが万博である。筆者の感覚では、行けば行くほどその可能性が高まる。単に「みる」だけでなく、なんらかの「する」行動を大いに楽しんだ人は多い。筆者の場合は、それが、後述するDVDへと繋がることになった。万博というキッカケがなければ、また、ハーモニカという楽器でなければ、ありえなかった。その一部は授業でも使用している。

2. 今年初めての試み

始めの部分は今年初めての試みであるが、大教室に入ってすぐハーモニカを吹き始め、教壇に向かう。約1分であるが、その間、受講の準備を整えてもらう（テキスト、ノート、私語など）。学生の気持ちの切り替えも、今までよりはよくなっているように感じられる。一回目の授業の時は校歌を演奏しながら、同時にビデオ撮影も行った。これは、毎回授業の終りに取り上げる映像が、このようにして撮られたものであることを示すためである。このときの映像は、秋学期の最後の授業に行く、後述する卒業特集で使用する予定である。その時学生は、映像に自分が写っているのを見て、さらに驚くかもしれない。とにかく、今年の授業は受講者の大きな拍手で始まった。

3. 「非日常体験時間」の内容

毎週最後の数分間で行う。異なる特集を組み、できるだけタイムリーな内容になることを心がけている。以下の内容は2009年度か2010年度のものである。なお、

「週」は暦の上でのことである。

①4月第3週

新しい受講者との対面である。「新年度スタート特集」となるが、1年生のいる科目では「新入生歓迎」も加わる。まず始めの映像は、入学式当日の日進キャンパスの桜である。それに合わせてハーモニカで校歌を演奏する。続いて校歌を歌うが、映像は四季の変化が美しい日進キャンパスの定点撮影スライド映像である。2曲目は「さくら（独唱）」である。夕方から夜にかけて、幾つかの角度から撮影した愛知県の桜の名所・五条川を見ながら、となる。最後の曲はコブクロの「桜」である。日進キャンパスの約1,000本の桜もみごとで、毎年一般公開（今年は3月21日～4月11日）をしている。今年の入学式は満開の桜の中で迎えたので、この日の映像を使った。例年授業開始の時にはかなり散っているが、みごとなキャンパスの桜を改めてじっくりと見てもらっている。

②5月第2週

すぐに5月15日がやってくる。「沖縄にとってこの日がどんな日か」を受講者に聞いてみる。自由記述の結果をまとめたのが表5である。正答は④の「日本への復帰」、すなわち「沖縄本土復帰記念日」である。正答率は58.5%であったが、隣の人と相談して書いた学生もいると思うので、割り引く必要があるかもしれない（表6も同様）。この日は「沖縄本土復帰」特集となる。まず、復帰前日までの沖縄の状況について、簡単に説明する。その中から特に高校野球を取り上げる。沖縄における「甲子園」初出場校・首里高校や夏の大会初の準優勝校・沖縄水産高校の当時のテレビ映像を見ながら、応援によく使われる「ハイサイおじさん」を演奏する。2曲目は、沖縄初の全国優勝校（センバツで2回）である沖縄尚学高校の校歌となる。映像は、選手としても監督としても優勝した比嘉公也監督（本学の卒業生）と部員の、大会前日の一こまでである。ハーモニカに合わせて歌ってくれた部員の姿もある。最後の曲は沖縄賛歌の「芭蕉布」である。オフシーズンの2月の観光を支えるのはプロ野球キャンプ（12球団中9球団、ほかに2軍と韓国）であるが、ホエールウォッチングも目玉の一つだ。かつてゼミ合宿の時、何度か沖縄経済講義をお願いした研究者に誘われて、同行した。なんともいえない海の色とすぐ目の前に浮かび上がる鯨、という感動的シーンにあわせて演奏したビデオを用いる。

表5 沖縄にとって5月15日とは？

単位：人，%

回答項目	回答者数	構成比
①沖縄戦の始まり	8	12.3
②沖縄戦の終わり	5	7.7
③沖縄慰霊の日	6	9.2
④日本への復帰	38	58.5
⑤その他	1	1.5
⑥無回答，わからない	7	10.8
合計	65	100.0

(注) 2009年5月14日，経済地理での自由記述アンケートによる。

③6月第2週

2002年6月9日は日本サッカー界にとって忘れられない日である。今年は6月9日が講義日に当たった。まず，ワールドカップ1次リーグ3試合の新聞を黒板に掲示する。そのうち初勝利特集として，その試合前の両国歌演奏に合わせてみる。勝利の瞬間を含む試合映像を見ながら，この大会から日本チームの応援に定着した「凱進行進曲」が続く。当時の公式アンセムについては，今年は授業開始前に，歩きながら演奏した。なお，今年の決勝トーナメント進出決定の日（6月25日）には，「外国書講読A」の授業があった。この科目では，英文を通してオーストラリアとニュージーランドを広く学ぶことにしている。この日は，ちょうど日本を加えて，3か国のGNIとGDPの比較を取り上げることになっていた。毎週最初の約15分間で，いくつかの問題をやってもらうことにしている。問題の一つに，「3か国のうちワールドカップ出場国と1次リーグの成績は？」を加えてみた。「日本2位（決勝トーナメント進出），オーストラリアとニュージーランド3位（敗退）」という正答は13人中4人。出場は「日本」のみ，「日本とニュージーランド」，「オーストラリアは予選敗退」，「日本1次リーグ突破」が各1人であった。その他が2人，無回答は3人である。授業の最後に，日本の決勝トーナメント進出を伝える，当日7時のテレビニュース録画を見た。さらに，試合直前の選手の映像と「君が代」に合わせて，演奏してみた。

④6月第4週

この頃の6月23日を取り上げる。この日は沖縄にとってどういう日か。約半数の学生が一応知っている。表6の①と②が正答となるが，③の中には旧日本軍の組織的戦闘終了と考えた者もいるかもしれない。今年は翌日に聞いており，その時点では，テレビや新聞などを通して知る機会が多かったはずである。しかし，その割には正答率が43.8%に留まり，②を合わせると今年の調査より

低い。当日の式典である「沖縄全戦没者追悼式」という回答についても、昨年と大きく異なる。「10分」では、まず、昨年同日の現地新聞特別版と今年同日の新聞夕刊を黒板に掲示する。今年は経済学の講義日に当たったので、当日朝のテレビニュースを流す。当時「集団自決」のあった読谷村か渡嘉敷村の映像に合わせて「さとうきび畑」を演奏する。さとうきび畑を歩く、作詞・作曲した故人の映像も欠かせない。次は「涙そうそう」である。筆者が長年撮ってきた沖縄各地の風景、戦跡および米軍基地のスライド写真を用いる。最後は「島唄」となる。沖縄の青い海、ゼミやクラブの合宿参加者、県花・デイゴが映る。

表6 沖縄にとって6月23日とは？

単位：人，%

回答項目	2009年6月18日調べ		2010年6月24日調べ	
	人	%	人	%
①沖縄慰霊の日	18	32.1	14	43.8
②沖縄全戦没者追悼式	10	17.9	-	-
③沖縄終戦日	8	14.3	1	3.1
④戦争開始日	2	3.6	1	3.1
⑤アメリカから独立	2	3.6	-	-
⑥日本復帰日	3	5.6	4	12.5
⑦日米安保条約	-	-	1	3.1
⑧沖縄サミット	1	1.8	-	-
⑨その他	2	3.6	3	9.4
⑩無回答，わからない	10	17.9	8	25.0
合計	56	100.0	32	100.0

(注) 経済地理での自由記述アンケートによる。

⑤6月第5週または7月第1週

2年に1度ほどの割合で、学生からリクエストされるのがビートルズである。その時は、この週を待って、特集として取り上げることになる。今年（今週）は授業開始前に“Let it be”を演奏予定。終りのほうでは、まず、1966年6月29日未明に羽田空港に降り立つ4人の映像を見る。次に、映像なしで“Hey Jude”。最後は、彼等の演奏映像に合わせて、“Yesterday”をやってみるつもりだ。

⑥7月第3週

この科目にとっては春学期最後の授業日となるので、夏休み特集として行う。まず、北アルプスの山岳風景と高山植物に合わせて「夏色」となる。次いで、青森ねぶた祭りと仙台七夕祭りとともに「夏祭り」。最後は、老若男女に好まれる「栄冠は君に輝く」とする。映像は、前年の全国高等学校野球選手権大会閉会式後の、選手場内一周と外野席からの全貌である。この歌は夏の高校野球

(地方予選を含む)のものとしてあまりにも有名であるが、次のような指摘にも言及することになっている。「作詞家は加賀大介で、本宮出身の伊藤久男がこの歌を堂々と歌い上げて、終戦直後の荒廃した日本の中で目的を失っていた若人の夢をかきたてた。歌詞の中の『若人』は、野球に志すものだけではなく、青春の情熱に燃えていた多くの若者への呼びかけでもあった。」(齋藤秀隆『古関裕而物語』歴史春秋社、2000年7月、132～133頁)

⑦ 9月第5週

「夏から秋へ」という特集で、秋学期を開始する。まず、約1ヵ月前の甲子園決勝戦と選手場内一周に合わせて、「栄冠は君に輝く」を演奏する予定。時間があれば、作曲者の記念館と作詞者の歌碑も紹介する。もう一曲は「秋桜」を種類の異なるハーモニカで演奏するが、映像も二つに分ける。「丘のまち」北海道美瑛町と日本各地のコスモスである。

⑧ 10月第1週

100周年記念講堂でのイベントをテレビニュースの録画で見る。一つは、東海3県の愛好者約100名が参加した「愛知ハーモニカフェスティバル」である。これは、ハーモニカ渡来100周年を記念して、筆者のゼミが主催(中部ハーモニカ連盟協賛)したものである。もう一つは、クリントン元米大統領の講演と学生からの質問である。

⑨ 11月第3週

このころになると、県内の紅葉の名所からの便りを目にする。県内各地や北海道大雪山の紅葉映像のほか、県内豊田市旧小原村の四季桜と紅葉の競演が「非日常」を演出してくれる。曲は「紅葉」や「北の国から」などである。

⑩ 1月第1週

2月に行われるプロ野球キャンプの映像と数球団の応援歌のほか、練習試合前の韓国選手と国歌になる。

⑪ 1月第2週

授業の最後の週である。まず、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の復興の歌「しあわせ運べるように」を演奏する。映像は神戸ルミナリエの変化(毎年、昼夜)のスライド写真を組み合わせたものである。この曲は、すぐ周りの学生しか気付かなかったが、避難訓練時に集合場所への移動中にも吹い

てみた。

年度最後の授業となるので、当日の特集は卒業である。まずは校歌。今年度は、4月最初の授業開始時に撮った映像を使ってみたい。授業中に見る映像に、校歌を聴く自分がでてくるという経験は、学生にとって初めてのことになるだろう。同時に、自分がどれだけ成長したかを含め、1年を振り返って欲しいという思いもある。続いて「旅立ちの日に」、「卒業」、「贈る言葉」を演奏して、1年を締めくくる。映像はテレビ放送の録画のほか、日進キャンパスの四季（定点撮影）と大学生活である。

⑫その他の週

日本の四季など、様々な内容が登場するが、主に次のものである。愛知万博や現地での映像とともに、各国の民謡や国歌など（楽譜なしで32カ国の国歌演奏が可能）を、毎回3曲ほど行う。

4. 「非日常体験時間」の意義

この時間はあくまで授業の一環であるが、それを意識しない学生も少なくないようだ。私語を厳禁しているので、大教室でもかなり静かである。時おり「静かだね」と言うほどである。しかし、その時間になると、後ろの方で私語が始まるのも事実だ。開放的な雰囲気も生まれるであろうし、後何分で終わりということもある。勉強の時間は終わったという意識も手伝う。それでもかまわない。

90分授業を80分余と10分弱に分け、全く別のことをすることは、1日の生活にあてはめることもできよう。仕事の時間と余暇の時間、勉強の時間と遊ぶ時間の区別であり、両方の充実をいかにするかが重要となる。「よく学び、よく遊ぶ」の真の実現は難しい。もちろん、筆者自身に「その時間は遊びだ」という意識はない。一見遊びに見えるかもしれないが、ふだん経験できない、また、気付かないことを通じて、様々なことを学び、感じて欲しいのである。それを誰もやらない方法で、また、学生にはここでしか体験できないと感じてもらえるように、と模索しているところである。

教員と学生とのかかわりの中で、学生の主観が「授業評価」に大きな影響を与える。この時間に意義を認めている学生は良好な評価をするであろうが、「10分」に反対やその内容に疑問をもつ（科目と関係ない、学食が込み合うので早く終わって欲しい、など）学生の評価は著しく低いものとなる。学生の授業アンケートによる、この科目の総合評価は全学および商学部の平均より常に0.4ポイントほど低い。全てとはいえないが、上記のことが一因であるのは間違いない。

上のような時間の分離は、経済全体の中の生産と消費やモノとサービスを考える時にも役立つ。80分も10分もモノではなく、一方ではサービスの生産であり、他方ではその消費となる。モノの生産と消費は時間的にも場所的にも分離されているのに対し、サービスの場合は同じ時間に同じ場所で行われる。しかし、全く同じではない。たとえば、大学の教育サービスの一つである授業でみてみよう。

学生が教室に入った時、教員はまだいない。この時点でサービスの生産は全く行われていないか。確かに授業は始まっていない。しかし、学生がいつ登校し、教室に入ってもいいように、すでに準備は整えられている。教員もまだ教室にこそ行かないが、研究室などで何かをやっている。時間になれば、授業が始まり、終わるまで教員と学生は時間と場所を同じくする（一部異なる学生もいる）。その間、確かに生産と消費は同時である。両者は授業開始とともに始まり、授業終了と同時に終わったかに見える。しかし、授業の前後を考慮すれば、どうなるか。

教員が準備などを行う時間と場所は、学生の予習・復習とは全く異なる。それらの内容は互いに全くわからない。準備なしに授業をしているとは思わないであろうが、準備に多くの時間を費やし、「わかりやすい授業」などのために苦労していることにも、気付かないかもしれない。理解しやすくするためや実際の様子を知ってもらうために、ビデオ映像を使うことが多い。そのための録画・撮影や選択にはかなりの時間がかかっている。教員の苦労を認識していても、「大学の授業で私語がひどい」（今年5月の新聞投書にみる、他大学でのこと）ことはありうるか。

広義の生産過程はもちろん、狭義のそれも、生産要素が使用される時点ではすでに始まっている。そのことはモノだけでなく、サービスにもあてはまる。それ故、「お客様」が来てくれないと困るのである。テーマパーク、コンサート、レストラン等は、「お客様」がいつ来てもいいように準備しているのである。授業も同じである。もちろん、最後の「10分」に関しても十分な準備が必要である。一朝一夕にはできないことを実感している学生も少なくない。

5. 「非日常体験時間」に対する学生の反応

学生の反応はもちろんさまざまであるが、ここでは自由記述によるものをほんの一部だけ示したい。基本的には以下のような反応の学生が多いが、否定的な感想も散見される。類似したことは1988年からやっている。非常勤としての他大学を含めれば、それ以降の学生の授業感想文の数は2万ぐらになろうか。それを通じて全体的な学生気質の変化を読み取ることは、今のところ、できていない。仮に変化があるとしても、それは「10分」の内容が徐々に変わってきた結果かも

しれないのである。特徴的な意見もその学生の個性によるものであろう。ここでは、最初の1988年と直近の2009年秋学期のものに限定する。若干名の学生の、いずれも関係する文の中の一部を抜粋する。

① 1988年履修の学生

このころは単にハーモニカを演奏していただけであり、主に当時のヒット曲や歌手別の特集をしていた。しかし、それでも次のような反応の学生達がいた。

- ・最初に先生のハーモニカで校歌を聞いた時は感動しました。中学時代に、ハーモニカを卒業生を送る時に吹いてくださった用務員の男の人がいたのを覚えています。本格的なハーモニカを聞いたのは、その時が初めてでした。その時、ハーモニカってこんなに、1曲1曲をすばらしく演奏できる楽器だったんだと感動してしまいました。今でも小池先生のハーモニカを聞くと、そう感じるがよくあります。
- ・初めて授業を受けた時、突然ハーモニカを吹かれたので、正直言って驚きました。まわりの人達も驚いていた様でしたが、いきなり授業に入るよりよっぽどいいなというのが、自分の感想であり、みんなの感想であったと思います。
- ・1限に講義があるときはいつも、朝6時54分の電車で通学しているので、大学にはたいてい8時20分には着いてしまいました。教室へ行くと誰一人いません。だから、いつも寝てしまいます。講義が始まる前にハーモニカがあったときは、そのハーモニカで目を覚ましていたのですが、演奏のないときは講義の途中で目が覚めることもありました。
- ・火曜日の1限目という誰でもたいへん眠くて受けたくないと思う時間での講義だというのに、講義前のハーモニカによってみんなをリラックスさせ、講義の受け方をより真剣にさせようとする教授のユーモアな発想によって、講義に対する不安はまったく打ち消されました。また、講義開始1時間後にある中休みとしての演奏も、ちょうど1時間経過してみんなの集中力が衰えてきたところをリラックスさせてくれるという、他のどんな講義にもない企画がたいへん嬉しいです。
- ・先生がハーモニカを持ってきてわざわざ演奏してくれるなんて、本当にうれしいです。しかも、僕たちの知っている曲目ばかりを選んで演奏してくれるので、僕たちなんか思わず歌詞を口ずさんだりして、ハーモニカと合わせて歌ったりもしています。もちろん、皆には聞こえないように歌っていますけど。ハーモニカの音色によって、今まで集中して講義を聞いていた張りつめた気持ちがおだやかになり、また、新たにながらばって講義を聞こうという気

持ちになります。

② 2009 年秋学期履修の学生

21年の間に「10分」の内容は大きく変化した。演奏だけでなく、通常は筆者の手になる映像が加わる。それもいろいろ工夫して撮影・作成したものであることを感じ取っている学生もいる。

- ・非日常の時間ではビデオとハーモニカで息抜きをしながら、普段生活しているだけだと、さらっと見逃しているような事にスポットを当てているので、逆に新鮮味があり、すごく楽しい時間です。
- ・先生の自作ビデオによる非日常の時間はおもしろかったです。あまり旅行に行かないので、ビデオの最初に表示される日付を見て、先生のアクティブさにおどろかされつつ、旅行に行きたい気分になりました。
- ・様々な国や地域の素晴らしい景色や特徴をビデオという動画で見ることのできる、この経済地理という授業は、とても貴重なものだと感じます。授業の中でも一番印象に残っているものは、小池先生が、世界各国の珍しい建物であったり、有名な場所に足を運び、その国の国歌をハーモニカという画期的な楽器で演奏している風景です。紹介している国の有名な景色に加え、ハーモニカの華麗な音色によるコラボレーションは、見る者の心を引きつけて離しません。
- ・今や日常的になってしまった「今日の非日常」についてですが、先日は「燃えよドラゴンズ」リクエストにお応えいただき、ありがとうございました。とてもうれしかったです。今年こそ日本一になれるよう期待したいですね！あれのすばらしいところは生演奏というのがありますが、先生オリジナルビデオつき、ということにあると思います。各地をまわられた映像をもって音をつけることにより、記憶に残りやすいし、なにより作品として美しくなると思います。
- ・季節の映像と共に先生の得意なハーモニカのコラボ。どのコラボにもハーモニカの美しい音色が合っていて、見る側の心をとらえていました。たった10分間ですが、普通の日常生活では体験できないことができ、本当にためになったと思います。先生のハーモニカから学んだことがもう一つあります。それは「一つのことを長く続ける」ということです。きっと先生のハーモニカは一日や二日で身につけたものではなく、絶え間ない日々の練習により身についたのだと思います。自分も、先生のように、打ちこめる事を早く見つけたいと思います。
- ・この大学の校歌を何度か聴かせてくれたので、あまり意識していなかった校

歌のメロディーを覚えました。一応、世代的には、サミットの曲が一番好きなので、その演奏をされた回が一番印象に残っています。私的な事では、僕は今年で卒業なので、最後に大学の授業らしい、ちゃんとした楽しい授業を受けることができ、思い出としても残りそうです。

- ・自分の中学校の卒業式も「旅立ちの日に」を唱った。その時「なんでこんなウタう？辛気臭い」と思ったが、今聞いたらメチャクチャ良かった。中学の思い出が、自分の中で「良いもの」になったんだろうと思う。

6. 校歌と練習会

上記の時間に何回か登場するのは「愛知学院校歌」である。校歌を知らない学生が圧倒的に多いが、それは、関心がないというよりは知る機会が少ない、ということであろう。表7によると、「歌える」学生（歌詞を見れば、を含む）は10%余で、「歌えない」（全く知らない、を含む）が3分の2を占める。「できれば覚えたい」は15%ほどで、決して高い数字ではない。しかし、それは校歌を知らないからであり、じっくり聴いてみると、覚えてみたくなる歌ではないか。以下にみる学生の感想が、ある程度それを裏付ける。

1995年にCD「愛知学院大学一学院歌集一」が作成されたが、それを知る学生は少ない。ひとりでも多く覚えて、就職活動出陣式や卒業式などで大いに歌って欲しいと思い、本部事務所に保管してあるCDを図書館に置いて貰うことにした。4月末に3部入ったので、いつでも聴くことができる。また、商学部では、2008年度より有志ゼミによる校歌練習会を行っている。約25のゼミのうち参加するのは4～5に留まり、それもほぼ固定している。学生は練習会をすることにあまりよい印象をもっていないが、実際やってみると肯定的な意見がほとんどである。以下はその一部である。

- ・校歌を聴いたのは入学式以来だったし、歌詞を見て、しっかり聴いたのは初めてだったので、よい経験ができたと思います。
- ・大学に校歌があるとは知らなかった。実にすばらしい校歌だと思った。機会があれば、また歌ってみたい。
- ・こんなにいい校歌があるなら、もっと歌うべきだ。
- ・クラブのリーダーシップに行った時に覚えたので、知っていました。
- ・4年間生活した大学の校歌を最後に知ることができてよかった。式では歌いたい。
- ・とてもいい歌で、校歌を歌うことで、改めて愛知学院大学に在学できていることを誇りに思う。

- ・今日の帰りの電車でつい口ずさんでしまいそうぐらい、楽しい雰囲気メロディーだと思った。これから忘れないようにして、自分の卒業式で歌えるようにしたい。今日の練習がなかったら、このまま校歌を知らずに卒業していたと思う。
- ・一部のゼミだけでなく、全部のゼミで歌うといいと思う。
- ・最初はなかなか音程もわからないし、昔の言葉を使っているのであまり親しみがないため、覚えにくかったです。(中略) 今日は何回も歌ったおかげで、校歌を知ることができたのでよかった。ぜひ他のゼミの子もやってみるべきだと思った。
- ・卒業式のVTRで歌っていない人が結構いたんですが、絶対ならないようにします。久しぶりに聞いて覚えやすかったです。講師の方もすごく気さくな方で、良い先輩だと思いました。

表7 校歌を歌えますか？

単位：人，%

回答項目	A	B	C	計	
①歌える	1	4	—	5	3.2
②歌詞を見れば歌える	4	6	5	15	9.6
③歌えない	22	9	18	49	31.4
④全く知らない	14	21	20	55	35.3
⑤できれば覚えたい	7	5	11	23	14.7
⑥無回答	3	3	3	9	5.8
合計	51	48	57	156	100.0

(注) A：2009年11月26日の経済地理 B：12月2日の経済学（2限） C：12月2日の経済学（3限）

7. 公開講座

長年にわたる「10分」の実行によって可能になった一例として、社会人を対象とした公開講座での筆者のテーマが挙げられる。本講座は1992年度から始まり、年2回行われる。講師は常に6名前後で、全員本学の専任教員である。毎回400名ほどの受講者がおり、好評を得てきた。同じ講師によって学外でも実施され、春季のものについてはラジオ放送もある。

筆者は1996年と2006年（いずれも秋季）に担当した。前の総合テーマ『余暇と人生』では「ハーモニカ—小さな楽器の大きな魅力—」、後の『異文化と日本—どう分かり合うか—』では「ハーモニカで振り返る愛知万博—NZマオリを中心に—」というテーマで行った。前者ではハーモニカの生産工程の映像や種類の

多さと実演のほか、ハーモニカにしかない魅力にも言及した。後者では愛知万博当時の個人的な交流の映像のほか、万博と現地・NZ ロトルアでのマオリ文化を比較した。マオリの代表的な歌をみんなで練習し、ハーモニカや映像に合わせて歌った。終了後、口ずさみながら帰る、受講者のほほえましい光景もみられた。上記したゼミ主催の「愛知ハーモニカフェスティバル」開催を含めて、「10分」がなければ、あり得なかったことである。次も同様である。

8. 硬式野球部応援など

ハーモニカは野球部の練習や試合にも出かける。去年は、沖縄県渡嘉敷島での合宿や愛知大学リーグ戦でもかなり吹いた。今年は時間がなかったが、全日本大学野球選手権大会3日前に、練習中の選手たちを応援した。後日、開会式に出席する選手達の前で、さらに、試合は0-1で惜敗したが、東京ドームでの練習中にも校歌演奏ができた。

かなり前のことであるが、経営研究所が当番となって地方調査機関全国協議会のシンポジウムを開催したことがある。懇親会の席上、出席機関の所在地（県）にまつわる歌を10曲近くハーモニカ演奏し、歓迎の意を表した思い出もある。

筆者は40年春日井市に住んでいるが、そこにはハーモニカクラブがいくつかあり、福祉施設の訪問を行っている。筆者もその一つを手伝っている。毎月5施設を訪問しているが、今は仕事があるので、平均月1回しか参加できない。しかし、これも非日常体験であり、楽しいし、教えられることも多い。ふつうはメンバーのハーモニカに合わせて、歌ってもらうわけであるが、多くの、嬉しそうな笑顔にふれ、こちらにも実によく楽になる。つい、学生の態度と比較してしまう。曲目は教室の場合と全く異なるが、あまり練習しなくてもやれるのは、長年の「10分」の体験がものをいう。

9. 私的DVDの寄贈と反応

「10分」で使用する映像等の約8割は、筆者の「一人十役」による手作りDVDに含まれている。これは、左手でハーモニカを吹き、右手でビデオ撮影したものである。失敗も多いが、やり直しが難しい。単に編集・録画しただけであり、多くの点で未熟で、体裁もよくない。しかし、2時間の中身が全く同じというものには少なく、下記のような人によって、かなり、または、多少の変化を持たせている。それぞれについて、「唯一無二」という表現も、許されるかもしれない。

タイトルは、「日本の四季」、「日本と会津」、「日本各地の季節と沖縄」、「日本

と外国]、「校歌，国歌および野球」，「旅と季節と山」，「北海道の風景」，「愛知学院大学と東郷高校をむすぶ」である。それに，いま編集中の「北海道，信州および沖縄」，「東海地域」および「万博で出会った人たち」となる。これらを次の人々に寄贈してきた（多くは1枚，多い人で5枚）。

- ・ 本学の教職員と卒業生（新卒者には卒業式当日の映像も入れて編集）
- ・ 科目ごとに表彰する在学生（3つの大教室クラスから計1～3名）
- ・ 硬式野球部関係者
- ・ 親しい他校の研究者
- ・ 筆者の出身大学のクラブやゼミの同期生
- ・ 筆者の出身高校の同窓会員
- ・ 毎年2回訪問している，愛知県立東郷高等学校の4人の先生（同校の校内，校歌歌碑，野球部などの映像を入れて編集）
- ・ ハーモニカ愛好者
- ・ 趣味のテニス仲間
- ・ これらのDVDに関心を示した人

このうち，早速視聴され，特に嬉しい感想を寄せていただいた方の礼状の一部を，感謝を込めて紹介させていただく。

- ・ 先生には，私の退職時にも心を込めて収録されたDVDを頂戴しており，何よりの思い出として，暇があると拝聴しては懐かしさに浸っております。
- ・ 沖縄などでの収録ビデオをDVDにて贈っていただき有り難うございました。今日届きましたので，さっそく昼下がりには家内と一緒に見せてもらいました。わずかな期間にあれほどの押さえどころを楽しむことができ，大いに得をした思いです。音痴と言ってはばからない家内が，いつの間にか先生のハーモニカの曲をなぞっていました。渡嘉敷の海の鯨たちの“虹の舞”などをみていると，もしかしたら，先生のハーモニカが鯨たちに届いたのかもしれませんが。家族が揃ったおりなど，みんなで楽しませていただきます。小生にとっても始めてみた渡嘉敷の海の鯨の舞を何枚か写真にしてみましたので，同封させていただきました。
- ・ 何かと雑用が多く，貴殿のDVDは落ち着いて見なければいけないと思いながら，その機会がなく，今日やっと落ち着いて2時間ばかり50曲近くのハーモニカ演奏と色々な風景を眺めさせて頂きました。特に，哀愁のある曲は良かったですね。また，息子以上に愛知学院の校歌を口ずさむのは上手くなった事でしょう。私も様々な所へ出掛けておりますので，懐かしい風景が出て参り思い出されました。私は，美空ひばりの歌の中で一番好きな歌が「みだれ髪」なので，何度か「塩屋の岬」を訪れた事があります。

- ・素敵な DVD が届いていてうれしいやら、ビックリやら！孫の世話で1ヶ月半留守をしていて、お礼が遅れ、大変失礼いたしました。すばらしい演奏と孤軍奮闘ぶりに感動し、心癒されました。本当に有難うございました。ハーモニカは手軽にどこへでも持参出来、最高の楽器ですね。これからも楽しいハーモニカ人生、ますます謳歌してください。
- ・DVD をお送り頂き、ありがとうございました。先生のお元気な姿、拝見しました。また、スライドとハーモニカはとても懐かしく、大学生時代を思い出しました。先生は講義のスライドで、私が行ったことのない場所や私の知らない多くの場所を教えてくださいました。ハーモニカでは「栄冠は君に輝く」が私の一番好きな曲です。これからも、たくさんの愛学生に聞かせ、見せてあげてください。この度は、誠にありがとうございました。先生に負けない幸せな家庭を築いていきます。

10. 「非日常体験時間」の理由

最後に、なぜこのようなことをしているのか。理由については、学生にあえて説明していない。それは少数の、固定したものに限定したくないからである。具体的に数えれば限らないが、何もいわずとも学生はいろいろ感じとってくれる、と信じているからである。上記の感想文にも表れているが、ほかにも様々な感想が寄せられている。最初拒否感を持つ者も、多くは次第に変化していく。

教室の中とはいえ、いろいろなものを見て視野を広げる。国や地域への関心を深める。さらに、通常ありえないこの時間を通して、日本の自然の変化と美しさ、地域や文化の多様性、何かをする時機、物事を遠近および逆方向から見ること、ここにいる自分たちだけの体験、大学は面白い、本学の良さ、などを実感してもらえらるであろう。モノ（の生産）とサービス（の生産）の違い、生産と消費の相互関係、などの基本的なことの理解も助けることになる。さらには、元気を出そう、チャンスを逃すな、何かやりたいと思ったら勇気をもってやってみよう、別の見方や方法はないか、何事も日々の努力と強い意識が必要、教員と積極的に話してみよう、などのメッセージにもなろう。何らかの良い刺激になることを願う。

(2010年6月28日投稿)

〔付記〕この時間の内容は毎年少しずつ変化してきた。残された時間は4年しかないが、どこまで進めるか。このようなことができるのも、直接係る学生諸君を始め、教職員の皆様の理解や寛容な気持ちに支えられているから、ともいえる。この場を借りて、深謝申し上げたい。